



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：井上 修 副会長：鈴木一比古 幹事：加藤 篤 公共イメージ向上委員長：瀧谷恵二



2025-2026年度 RI会長メッセージ

よいことのために手を取りあおう

2025-2026 RI会長
フランチェスコ・
アレツォ
＜イタリア＞



第1760回例会 令和7年11月25日(火)

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 真実を求めて 伊藤かおりソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

・衛星クラブ 馬場秀則会員

■ 会長談話 井上修会長（代読：鈴木一比古副会長）



矢島さんと杉本さんが長野日報の記事になりました。矢島さんはソフトボールへの貢献の表彰、杉本さんは会社の移転に思いを寄せられています。お二人おめでとうございます。



高市早苗氏の25年前の松下政経塾での論文があります。今回の所信表明演説と全く同じ文章とか。趣旨一貫立派な事です。ご参考までのその論文を回覧します。

二十一世紀の繁栄譜

2025年10月24日 上甲晃

長い間、私の本箱に眠っていた一冊の本がある。題名は、「二十一世紀 日本の繁栄譜」。著者は、「松下政経塾出身国会議員の会」。PHP研究所から、二〇〇〇年の一月十日に出版された本である。今から二十五



年前の出版であり、最近は、本箱から取り出すこともなかった。今朝、産経新聞を読んでいたら、この本のことを大きく取り上げていた。そこで、慌てて、本棚を探したところ、見つけることができた。この本には、十三人の松下政経塾出身の国会議員がそれぞれに自らの志について、自ら詳しく書いている。十三人の中には、既に逝去した人もいる。三人は今、政治家ではない。しかし、残りの九人は、れっきとした現役の国会議員である。その中に、高市早苗氏の執筆した文章も掲載されていた。産経新聞はその内容を紹介していた。

そこで、私もまた、高市早苗氏の書いた文章を読み直してみた。今から二十五年前に高市早苗氏が自ら書いた文章はまことに興味深かった。と言うよりは、二十五年前から、高市早苗氏は、今日のあることを予測して備えていたことに驚く。高市早苗氏の担当したページの冒頭は、「二〇一〇年十月、自民党総裁選後の衆参両議院本会議での首班指名を受けて、高市早苗自民党総裁が内閣総理大臣になった」とある。高市早苗氏は、二十五年前から、自ら、総理総裁の立場に立つことを思い描いていたことに驚く。偶然にも、二十五年たった二〇二五年前の同じ十月に、その思いが現実になったのである。

端的に言えば、高市早苗氏は、最初から、総理大臣になることを思い描いて、政治の道を歩いてきたのだ。それも、単に地位役職を求めたからではない。本文中に、「現在の私はまだまだ駆け出しの二年生議員であるが、常に、`自分が総理だったらこの件にどう対応するか`と考えながら、その時々政治課題に取り組むことが習慣になっている。(略) 真に国家と国民のお役に立てる政治家に成長する為のトレーニングとしてお許しいただきたい」とある。私はふと、そのくだりを読んでいて、新入社員の時に、松下幸之助から、「君たちは、今は一社員である。しかし、この会社に入った限りは、常に、立場は新社員であっても、意識は社長であれ」と教えられた言葉を思い起こした。まさに、高市早苗氏は、駆け出しの国会議員の時代から、意識においては、総理大臣だったのだ。言葉を換えれば、高市早苗は、総理大臣になるべくしてなった。

■ ニコニコボックス

- ◆井上修 最近、矢島さんと杉本さんが長野日報の記事に載りました。矢島さんはソフトボールへの貢献による表彰、杉本さんは会社の移転に思いを寄せられています。会員が記事になることは殊更嬉しいものがあります。
- ◆加藤篤 地区大会に参加された皆様、朝早くからお疲れ様でした。クラブ優秀賞の受賞、よろこばしいかぎりです。
- ◆橋爪麻人 小川先生、鈴木副会長、安青錦の昇進くらい急な話でしたが、本日は代役よろしくお願ひします。
- ◆杉本徳治 これからも良い製品、良い会社で地域に貢献します。
- ◆伊澤和男 ゴルフ部長かおりさんから3位の表彰をしていただきました。ありがとうございます。
- ◆渋谷恵二 会員の皆さんよりご厚志、励ましをいただきありがとうございます。

■ 幹事報告

加藤篤幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・11月11日(火) 地区会員増強合同委員会定期会議の報告

池上幸平地区会員増強委員



・アンケートについて

会長向け・会員向けの2本立てとして、内容を全員に確認していただいた。内容については意見があり修正して12月1日に全クラブに発信する予定。締め切りは12月15日1月中に統計データをまとめて発表

・11月15日（土）～16日（日）地区大会の報告 加藤篤幹事



11月15日・16日に第2600地区大会が松本市にて開催されました。大会に参加された会員の皆様は朝早くから夕方まで大変にお疲れさまでした。

1日目はホテルブエナビスタにて「会長・幹事会」と国際ロータリー会長代理の神野正博様とロータリー平和センター長の新垣修様の記念セミナーが開催されました。

神野様は昨年1月1日の能登半島大地震にて甚大な被害があった七尾市にあり震災直後から病人やけが人の治療看護にあたった恵寿総合病院の理事長です。今年の地区大会テーマである「地域の防災・減災」にちなみ自身の震災後の病院診療継続のために実践したことや震災時に備える必要性を講演されました。

新垣様は世界に7つしかないロータリー平和センターの一つである国際基督教大学の平和センター長です。平和センターの役割や受け入れた平和フェローの活動などを紹介されました。

2日目はキッセイ文化ホールにて大会が開催され、前日の「会長・幹事会」にて決定された事項の報告のあと、青少年アワーで各高校の IAC の皆さんが各校の活動をショートムービーにまとめて報告があり、交換留学生などの「よねやま親善大使」による留学先での生活の様子や、日本に交換留学で来ている学生の皆さんの自国紹介、グローバル補助金留学生の留学先の様子紹介、米山奨学生の自己紹介がありました。また、モンゴルの第6代よねやま親善大使ガンバトトゥメンバヤルさんの卓話がありました。

アトラクションとして山形村の「彌磨（やま）太鼓」の皆様による太鼓やバイオリンの演奏、松本蟻ヶ崎高校書道部の皆さんによる書道パフォーマンスが行われました。その後、友愛劇団による「防災」について演劇が披露されました。

クラブ表彰では伊那中央ロータリークラブが「クラブ優秀賞」を受賞しました。

なお、決定されたガバナーエレクトなどは以下の通りです。

2026 - 2027 年度ガバナーエレクト＝橋上 信久（飯田南 RC）

2026 - 2027 年度ガバナーノミニ－＝金井 敬司（長野北東 RC）

ガバナーノミニ－・デジグネート＝出田 行徳（上田 RC）

2026 - 2027 年度地区大会＝1 日目 飯田市シルクホテル・2 日目 飯田文化会館

■ 出席報告

会員数40名 出席免除会員4名 長欠会員1名 本日出席者（例会場）20名（ZOOM）1名
事前メイク6名 出席率77.14% 前回出席率 修正なし

■ クラブフォーラム

「ロータリー財団委員会」

小川秋實ロータリー財団委員



ロータリー財団について

国際ロータリーが行う奉仕活動の資金を管理・運営する団体がロータリー財団。その運営は国際ロータリーの理事会が関与する。国際ロータリーとほぼ一体の組織。正式名称は、「国際ロータリーのロータリー財団」。

国際ロータリーは、世界各地にあるロータリークラブを束ねている組織。各ロータリークラブは、国際ロータリーの規則に従わなければならない。たとえば、会員は年齢・地位に関係なく、平等対等。宗教的・政治的活動はしない。理事会が最高議決機関など。

奉仕プログラムの主なものは、以下の通り。

1. ポリオプラスは、ポリオ（脊髄性小児麻痺）の根絶運動。現在の罹患患者は20人（アフガニスタン2人、パキスタン18人）。確実な治療法はないため、予防接種による予防が重要。根絶まであと一息。
2. ロータリー平和フェローシップは、若者がロータリー平和センター（世界各地の8大学、日本では国際基督教大学）で学び、その後、世界各地で平和を推進し、紛争解決にあたる。
3. グローバル補助金は、ロータリーの重点分野（平和の推進、疾病との闘い、水と衛生。母子の健康、教育の支援、地元経済の成長、環境の保護）において持続可能で測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動（3万ドル以上のプロジェクト）を支える。
4. 地区補助金は、小規模・短期的な地区のプロジェクトへの補助(20-30万円)。各ロータリー地区が決

定する。当クラブは、「バラの鉢植え」・「野鳥看板」・「バッティングマシン」の寄贈、「植樹」などを行った。今年度は、先月「犬田切川周辺環境整備事業」として伊那市に協力して植樹を計画したが、雨天のため、伊那市へ植樹用器具の贈呈のみ行った。

ロータリー財団の財源は、会員や一般からの寄付金による。年次寄付の地区目標は会員1人あたり150ドル。当クラブでは、奉仕会計から1人あたり50ドルを寄付するので、例年5-6人の会員に1人1,000ドルの寄付をしてもらう。1,000ドル以上寄付すると、ポールハリス・フェローとして表彰される。この寄付には税制上の優遇措置がある。地区の年次寄付は、その約50%が3年後に地区財団活動資金として交付される。以上の寄付とは別に毎年、ポリオプラスに対して1人30ドル、平和フェローシップに対して200円をロータリー財団に寄付している。また、国際ロータリーから人頭分担金(今年度は82ドル)が賦課される。

ロータリーの目的・行動指針について

入会を勧誘されたとき、ロータリークラブとは何をする団体かの説明を受けても、おそらく、すっきりとは分らなかった人が多い。あるいは、会員になっていれば徐々に分かってくるので、とにかく入るよう言われたかもしれない。

ロータリーについての説明文書を見ると、格調高いが、意味が分かりにくい言葉が並んでいる。たとえば、「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある」は、平たく言えば、「世のため人のために尽くすよう事業をする」こと。

第1モットーの「超我の奉仕」は、「超我」が造語なので意味が分かりにくい。米山梅吉翁は、これを「サービス第一、自己第二」とか、「自己に先立つサービス」と訳した。「自己を犠牲にして他人にサービスする」ことではない。

第2モットー「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」も、「最善のサービスをすれば、結果として最大の利益が得られる」と訳したほうが分かりやすい。

奉仕とサービスの違いは、奉仕は無償で他人に尽くすこと、サービスは対価を求めて提供する行為。奉仕とボランティアの違いは、自発的に行う行為がボランティア、奉仕は自発性の有無に関係がない。

将棋は相手の王様をとれば勝ちという分かりやすいルールだが、囲碁は陣取り合戦といわれても、石の生き死にや、打ってはいけないところなど、いろいろなルールがあって、初めてやる人には分かりにくい。しかし、やっているうちにだんだんとルールが分かってくる。ロータリークラブは囲碁に似たところがある。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

12月2日(火) 点鐘/12:30 場所/海老屋料理店
・年次総会(次期役員理事発表・委員会会計中間報告)